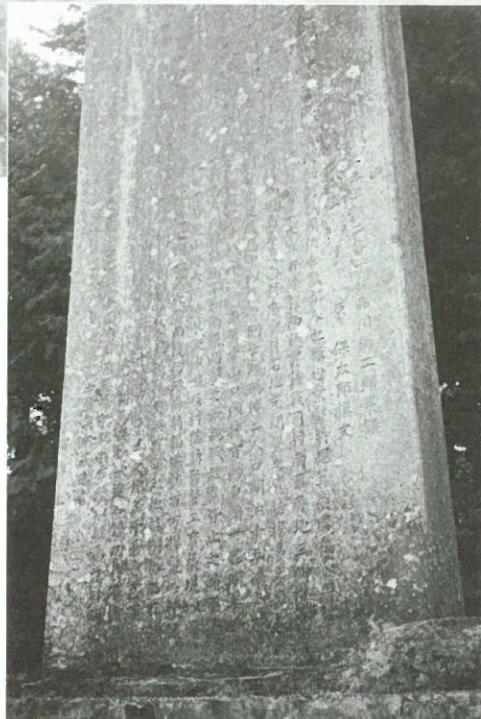


第一部
顯彰碑

松永周甫顕彰碑

松永周甫は文化十三年（一八一六年）長州の萩に生まれた。本草学を修めるため諸国を遊歴し、嘉永三年（一八五〇年）に吉敷郡鋳銭司村南原（現山口市鋳銭司）で薬草園を開いた。同地区の地質は風化花崗石のため、周囲の山に樹木なく、土砂流出が著しかった。土砂は下流の梅の木川に堆積し、大雨のたびに浸水被害をもたらした。

これを見た松永は全私財をなげうち、数百メートルにおよぶ土砂畠整工事を行うとともに、荒廃がすむばかりの山地に植林を始めたのである。数十年の後、苦劔は緑の復元として結果美した。これが山口県砂防工事の初めと言われており、明治二十年（一八八七年）八月九日、松永周甫の功績を讃えて、記念碑が建立されたのである。



宮中顧問官正三位勲二等子爵品川彌一郎篆額
山口縣知事正五位原 保太郎撰文

翁名祐利字周甫松永氏號朝風周防吉敷郡人也家世業醫翁繼箕裘夙存心本草學負笈遊歷諸國研究農學齋草木五百餘種而歸買鑄錢司村南原瘠地三町餘墾辟以試栽培移居其近村名田島尋遷南原悉賣旧宅地充開墾之資拮据多年專從事於樹藝老農之名聞于遠近慶應中以藩命列士班賜俸二人口明治十五年東京米麦及山林共進會各賜褒賞十八年 車駕幸山口以特旨賜白絹一匹明年六月病發齡七十有一翁爲人剛毅能堪事初南原開墾之舉親戚故旧皆止之翁不聽誓期成功蓋其爲地四面皆禿山每大雨潦水流沙溢及村落翁舊督工事築堤以通水理種樹以牢地質施防遏之術一夕大雷雨堤防殆崩翁獨操鋪百方捍禦心神恍惚拜天祝地伏以待旦須臾水勢稍減僅得支持焉後更撰可墾之地益樹藝而不幸辭世雖素志不卒其所開拓田圃數頃山林數十頃古來不毛之地至千著青色可謂勸業唱首矣頃者勤業課長湯淺則和農學校長高岡直吉等欲建石碑功於不朽請余文余以爲是足以獎勵殖產之業矣因不辭而應屬概記翁事蹟以授焉于時明治二十年八月九日也

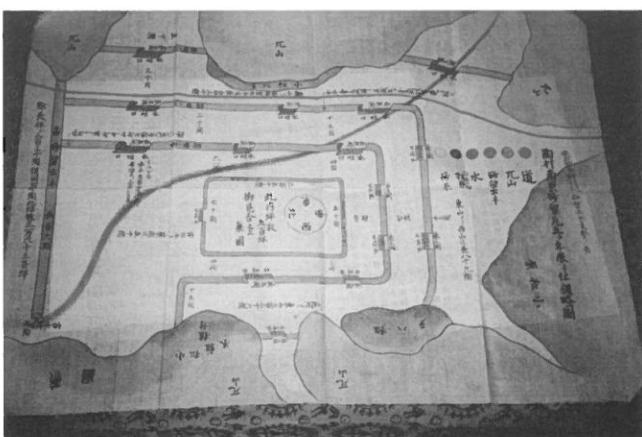
千葉縣士族栗本義進書

訳文

翁名祐利、字は周甫、松永氏、号は朝風、周防吉敷郡の人なり。家の世業は医なり。翁箕裘(祖業)を繼ぎ、夙に心を本草学に存つ。笈を負ひ、諸国を遊歴し、農学を研究し、草木五百余種を齊へて帰る。鑄錢司村南原の瘠地三町余を買ひ懇辞し、以て栽培を試みる。居を其の近くの村名田島に移し、南原を尋遷し、悉く旧宅地を売り、開墾の資に充つ。拮据(いそがしく)傍(くわん)く多年、導きて樹藝に従事す。老農の名は聞こえ、慶應の中、藩命を以て士に列せられ、班で俸二人口を賜る。明治十五年東京米麦及び山林共進会より褒賞を賜る。十八年、車駕幸山口特旨を以て白絹一匹を賜る。明年六月病歿するに齡七十有一。

翁の人と為りは、剛毅にして、能く事に堪ゆ。初め南原開墾の举は、親戚、故旧、皆之れを止む。翁は誓いて聴かず、成功を期す。蓋し其の地、四面皆禿山にして、大雨の毎に洪水、流沙は溢れて村落に及ぶ。翁、工事を奮督し堤を築き、以て通水し種樹を墾ち、以て地質を牢つて、防遏の術を施す。一夕、大ひに雷雨あり、堤防殆く崩れんとす。翁、獨り鋪を百方に掉し操る。心神を禦し、恍惚として天を挙し、祝して地に伏す。以て旦だ須く水勢の曳くべきを待てば、稍々減じたるは、僅かに支持を得たるか。後に更に可懼の地を撰び、樹芸を益すも幸ならず。辯世には、素志と雖も卒らざるなり。其の開拓する所の田園數頃、山林數十頃は、古来不毛の地にして、至千、青色を著はして、勸業を謂すを唱す可きのみ。頃者、勸業課長湯浅則和、農學校長高岡直吉等、石を建て功を不朽に伝へんと欲して、余に文を請う。余、以為らく、是れ以て殖産の業を奨励するに足ると。因て辨せざして応じ、夙に翁の事蹟を概記し、以て授くるなり。時に明治二十年八月九日也。

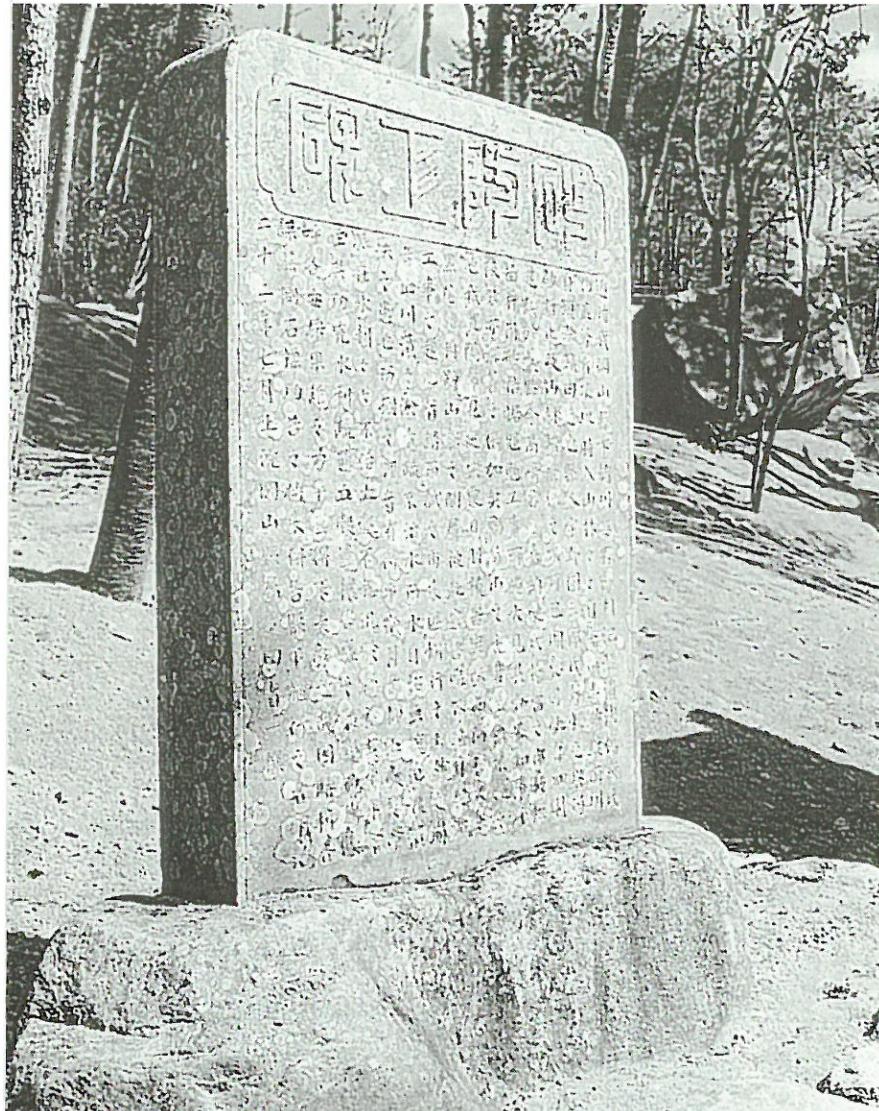
千葉県士族栗本義進書



宇野圓三郎顕彰碑

岡山県井風呂谷川は高梁川水系樋谷川の支流で、岡山県中央部の総社市を流れる溪流である。この付近一帯は、山林伐採による荒廃が著しく、古くから山崩れや土石流に悩まされてきた。明治に入り、近代砂防の先駆者といわれる宇野圓三郎の指導により、石積みの砂防ダムが築造され、それ以来土砂流出の被害がみられなくなった。宇野は明治十五年（一八八二年）に眞令に土砂崩壊の防止と山林培養を建言しており、これが岡山県における砂防事業につながつていったのである。宇野の松苗を植える工事が成果を上げ、県下全域にこの工法が広がつていった。

石碑はこの功績を讃えるため明治二十二年に建立。平成元年（一九八九年）～四年度に実施された砂防学習ゾーン・モデル事業の際に、穴粟地区から現在の位置に移設した。



近時我岡山県下の諸川は、長雨ごとに氾濫・決壊し住民の財産を損傷することが多かつた。これは伐採する時を定めず山に入るので、山林が自然に禿げて土砂が崩壊し、川が埋まつてしまふからであると思われる。

岡山県人宇野圓三郎氏はこれを嘆いて、土砂の崩壊を防ぎ止めることと、山林培養の方法をとらざるを得ない、ということを、明治十五年（一八八二）四月先の県令（県知事）高崎君に建言したところ、県令は喜んでこれを受け入れ、宇野氏にこれを担当させることにした。

これにより宇野氏は松苗を植え土砂の崩壊を防ぐ工事のため忙しく働きながら努力したところ大いにその効果があらわれたので、県知事千坂君は大変喜んで益々これを奨励し禿げ山といえどこの工事を施さない所はない、というようになつた。

我が賀陽郡身延・宍粟・日羽・楨谷・奥坂・西阿曾・久米・黒尾の諸村は山の谷間に跨がつて、しばしばこの害を蒙り、嘆く声が絶えない状態であつたが、初めてこういう工事が起されたので、願い出てこの地へもそれを試みてもらつことにした。

それ以来、怠ることなく工事をしてきたので、土砂の崩れは止み、川に堆積した土砂も流出した。このため直接水を治めることをしなくても水は自然に治まり、また、氾濫・決壊という心配もなくなつた。そして、樹の種は歳月の経つのを待つようになつた。

そもそも五穀の命脈は水にある。治水がそれでいなければ五穀は稔らない。ましてや、たびたび水害を蒙るということについては言うまでもない、ことである。

今こうした工事が終わり灌漑が出来上ると、五穀は豊穰し、それまで嘆いていた声は喜びの声に変わり、皆が安堵するようになつた。これは果たして誰の力によるものか、どうしてこれを表彰せずにおられようか。よつて、村々相謀り、ここに石碑を建ててこれを将来に告げ、併せて県下施工の者に告げる。

明治二十二年七月上旬

岡山県属 多田省一 述作



▶ 交通案内
◎JR伯備線豪渓駅より徒歩30分(約2km)
▶ 所在地
岡山県総社市見延地内
▶ 水系名及び溪流名
高梁川水系楨谷川井風呂谷川
▶ 問い合わせ先
岡山県砂防課 電話086-224-2111



伊藤五郎顕彰碑

福田町(旧豊浜村)は豊浜海岸をもつ海沿いの町であるが、実は明治の終わりの頃まで、ここには高く位置する砂浜がなかつた。そのため沿岸の畠地は、台風や高潮のたびに海水に洗われ、農作物の被害がたえなかつたのである。この危機を救つたのが、地元の豊浜出身の伊藤五郎であった。伊藤は砂浜に藁を差し込み、風に吹き飛ばされた粒砂を藁の周囲に集めた。吹き寄せられた砂は徐々に積もり、ついには砂丘を現出させたのである。このようにして砂防堤を築堤する工法はサシキリ(ヤナサシ)と呼ばれる。これを機に静岡県の海岸砂防が翌年から大きく展開されることになった。記念像は、海水の害から豊浜地区を守つた伊藤の功績を讃え昭和七年(一九三二年)に建立されたものである。



砂防功劳者
伊藤五郎



太田川河口右岸
昭和13年度植樹生育狀況



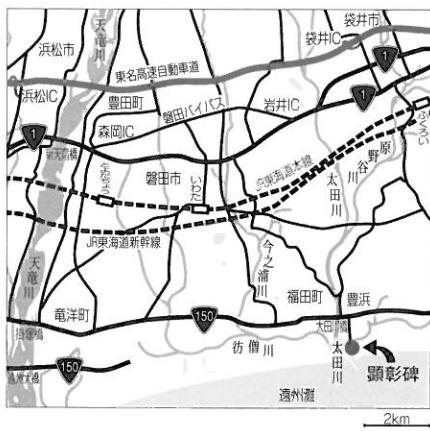
太田川河口右岸



太田川河口右岸
砂防工事(昭和18年度)



太田川河口砂防工事



● 交通客內

◎、JR東海道線磐田駅下車 福田行き福田営業所下車 徒歩約20分

所在地

静岡県磐田郡福田町豊浜字白浜4406-2

水系名及

太田川

▶問い合わせ先





4

島根県

◎建立者／村住民(後援／三成土木管区事務所)
◎建立年／昭和二十三年十月

佐佐木英一翁顕功碑

島根県斐伊川流域は、古く出雲風土記の時代より山腹を切り崩し、流水によって砂と鉄を分ける「鉄穴（かんな）流し」の方法で、良質の砂鉄採取が行われてきた。しかし、それにより、流域の荒廃を招いたことは否めず、この地では古代から水害との闘いを強いられてきたとも言えるのである。

昭和九年（一九三四年）の室戸台風にあつたとき、奥出雲の盆地は一面土砂に覆われるという甚大な被害を蒙り、長野県より砂防技師を招いて砂防工事を行った。これが島根県の本格的な砂防工事の始まりといわれている。

この時に献身的な働きをしたのが佐佐木英一であつた。村議、県会議員、村長を歴任し、砂防事業に邁進した翁に感謝し、その功績を讃えるため、この碑が建立されたものである。

碑文

表
面

佐佐木英一翁 要功碑(けんこうひ)

国務大臣 一松 末吉 書

裏
面

翁八明治十四年十月本村ニ生ル資性温厚人格高潔ニシテ徳望高シ本村村議会ニ当選七期本村村長ニ就任二十一年島根県議會議員當選三回其ノ他各種役員ニ就キ、翁ハ地方行政ニ携ワルコト四十有余年ニ及ブ其ノ間常に誠心誠意事ニ當リ其ノ功績顯著ナリ就中昭和九年水害復旧工事ニ才イテ本村ハ歴史的大事業ナリシカ翁八県当局ニ協力シ不眠不休ノ努力ヲ捧ゲ依ニ以テ氾濫極メリナカリシ大馬木川治水ノ基業ケリ、其ノ後当局八年々砂防施設ヲ強化シテ治水ノ恩患ニ浴スルヲ得タリ。

翁八東奔西走献身的努力ヲシテ世ノ益シク感謝スル所ナリ、村民相団リテ其ノ徳ヲ後世ニ博エントシ三成土木管区事務所ノ後援ヲ得テ此ノ地ノ碑ヲ建立スルナリ

昭和二十三年十月



▶ 交通案内

◎JR木次線 出雲横田駅下車 日の丸バスで約15分

国道314号から八川で主要地方道上阿井八川線へ入る

大馬木川(おおまきがわ)に架かる新市橋付近 国道より車で約10分

▶ 所在地

島根県仁多郡横田町地内

▶ 水系名及び溪流名

斐伊川水系木馬木川

▶問い合わせ先

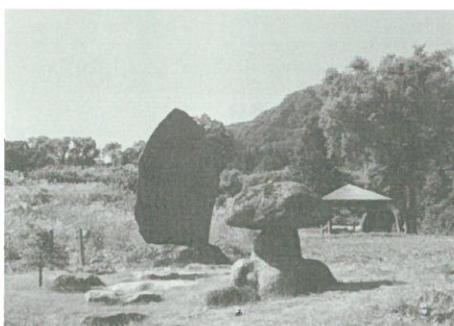
島根県砂防課 電話0852-22-5225



頌徳丸山善助碑

明治三十五年（一九〇二年）五月十七日、新潟県新井市の栗立山が突然大崩壊し、雪まじりの土塊が流浜谷に崩れ落ちて、萬内川の河道を塞いだ。二十日には、折からの融雪出水により、大量の崩壊土砂が土石流となって下流にある村の西野谷を呑み込んだ。その被害は家屋全壊十八戸、半壊七戸、納屋・土蔵・水車小屋八棟、耕地全体を埋め尽くすものであった。

開村以来の壊滅的な被害に対して、住民の先頭に立ち復興へ向けて奮闘したのが部落長の丸山善助であつた。その後、丸山は生涯を治山・治水事業の進展に捧げた。この功績に昭和三十年藍綬褒章が授けられ、それを期に翌年、顕彰頌徳碑が建てられたものである。

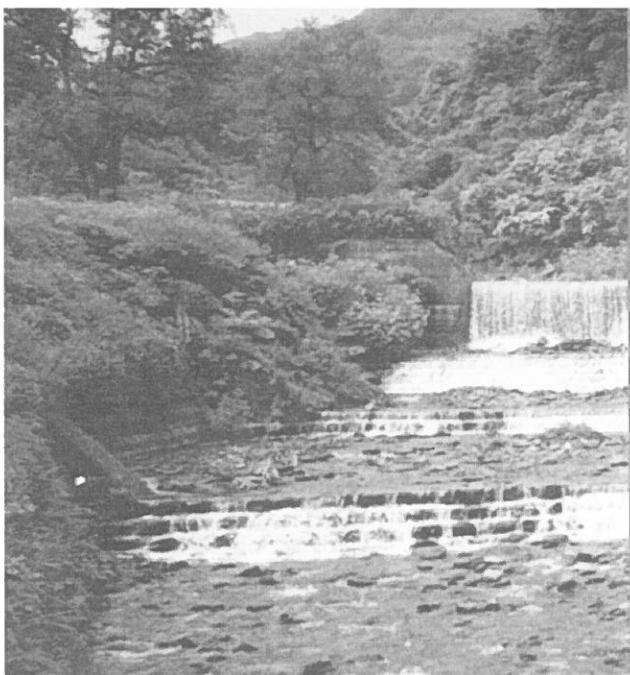




明治35年 災害写真



竣工写真



万内川現況

碑文

頌德

丸山善助碑

丸山善助氏は、明治十六年九月二十四日新井市大字西野谷に生まる。

明治三十五年五月突如粟立山一帯崩壊致し、美田一夜にして荒廢に歸す。県立高田中学校卒業の後、若くして部落長の任にありし氏は、陣頭に立ちてその復旧に死力を尽くし、遂に大正九年県内嚆矢の県費による萬内川砂防工事を完成す。

氏は爾來「平野を治めんと欲すれば、山と川を治めよ」の信條の下に、五十有餘年東奔西走その生涯を治山治水に捧げ、特に万難を排して閏川矢代の二大河川の治水、その水源地の治山の端緒を開く。

昭和二十五年 指定られて中野原郡治水砂防協会長となり後、新潟県治水砂防協会会长及び新井地区治水砂防協会会长を兼ね銳意その目的の完遂を期す。

市役所矢代支所長の職に就き、林道開発による木炭の改良、山村における有畜農業による農家経済の向上を計る。

而してその成果の着々と挙りしは、氏の偉大なる指導力と強固なる意思の然らしむる処なり。

さること数次、昭和二十二年建設大臣より表彰され、同二
十年藍綬褒章を授けらる。

茲にその功を不朽に伝へんと、有志相謀りて、氏の頌徳碑を建設せんとし、余に文を嘱す、仍つて不才を顧みず記するのみ。昭和三十一年七月一日 新潟大学助教授 竹内忠雄 撰並書

地元代表
丸山正男
小林虎雄
小林公雄

小林林本

- ▶ 交通案内
 - ◎JR信越本線新井駅下車 頸南バス西野谷行き西野谷バス停下車
徒歩約3分
 - ◎国道18号長森交差点より5km 車で10分
- ▶ 所在地
新潟県新井市西野谷地先
- ▶ 水系名及び溪流名
関川水系矢代川左支川万内川
- ▶ 問い合わせ先
新潟県砂防課 電話025-285-5511



6 鳥取県

◎建立者／発起人（全国治水砂防協会・鳥取県支部長安東哲次郎
鳥取県西伯郡大山町長入江正雄・三和建設株式会社社長谷口順一）
◎建立年／昭和三十六年四月吉日

有備則患無の碑

元内務技師の赤木正雄氏は兵庫県豊岡市の出身で日本の砂防事業の礎を築き、砂防事業の権威者として活躍していた。同氏は鳥取県にも思いを馳せ、昭和七年からはじまつた阿弥陀川治水砂防事業などをはじめ、毎年県下の各河川の工事の援助と指導を行つて鳥取県の土地の荒廃と人命を護つてきた。

これら永年の功績に対し、氏に尊敬・感謝の意を込めて地元民が中心となつて赤木正雄揮毫による「有備則患無（そなえあればうれいなし）」の碑を昭和三十六年に建立した。

赤木正雄氏はその後、昭和四十六年に文化勲章を受賞したが翌四十七年、他界。戒名は「治水殿攘嚴正雄大居士」。死してなお治水砂防事業に思いを馳せているようである。

碑文

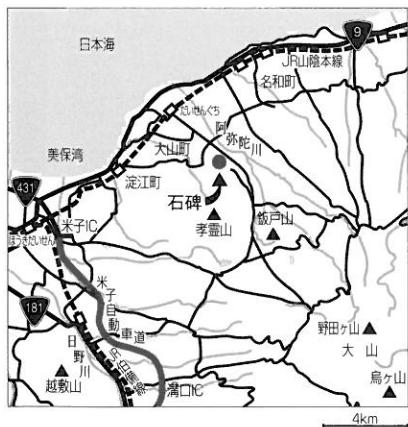
袁面

有備則患無(そなえあればうれいなし)
裏面

赤木正雄書

元内務技師農學博士赤木正雄先生は兵庫縣豊岡の産夙に治山治水の思いを致され我が國砂防事業の礎を築き斯
界の権威として萬人の仰ぎ見る所である天災は忘れた頃に来ると言われるが嘗々幾百年の我が農民の勤労の成果
も一朝魔の襲う所とならんか美田も瓦礫の荒野と化し多數の人命さえ失うことは年々歲々吾人の目撃するところ
である我が鳥取県においても斯に思いを馳せ赤木博士の御援助と御指導の下に昭和七年阿弥陀川筋大山地區に砂
防堰堤を構築したのを手始めとして爾来毎年縣下各河川に工事を継続して来たのであるがこれによつて土地の荒
廃と人命を護り得たことは想像に餘りあるものがある我等今この縁りの地に碑を建て以て博士の一大功績を永く
後世に伝える

昭和三十六年四月吉日



● 交通客內

◎JR山陰本線大山口駅下車 日交バス大山行き佐摩バス停下車 徒歩5分

◎国道9号大山町末吉交差点より7km 車で約5分

▶ 所在地

鳥取県西伯郡大山町佐摩地内

▶ 水系名及び溪流名

阿弥陀川水系

▶問い合わせ先



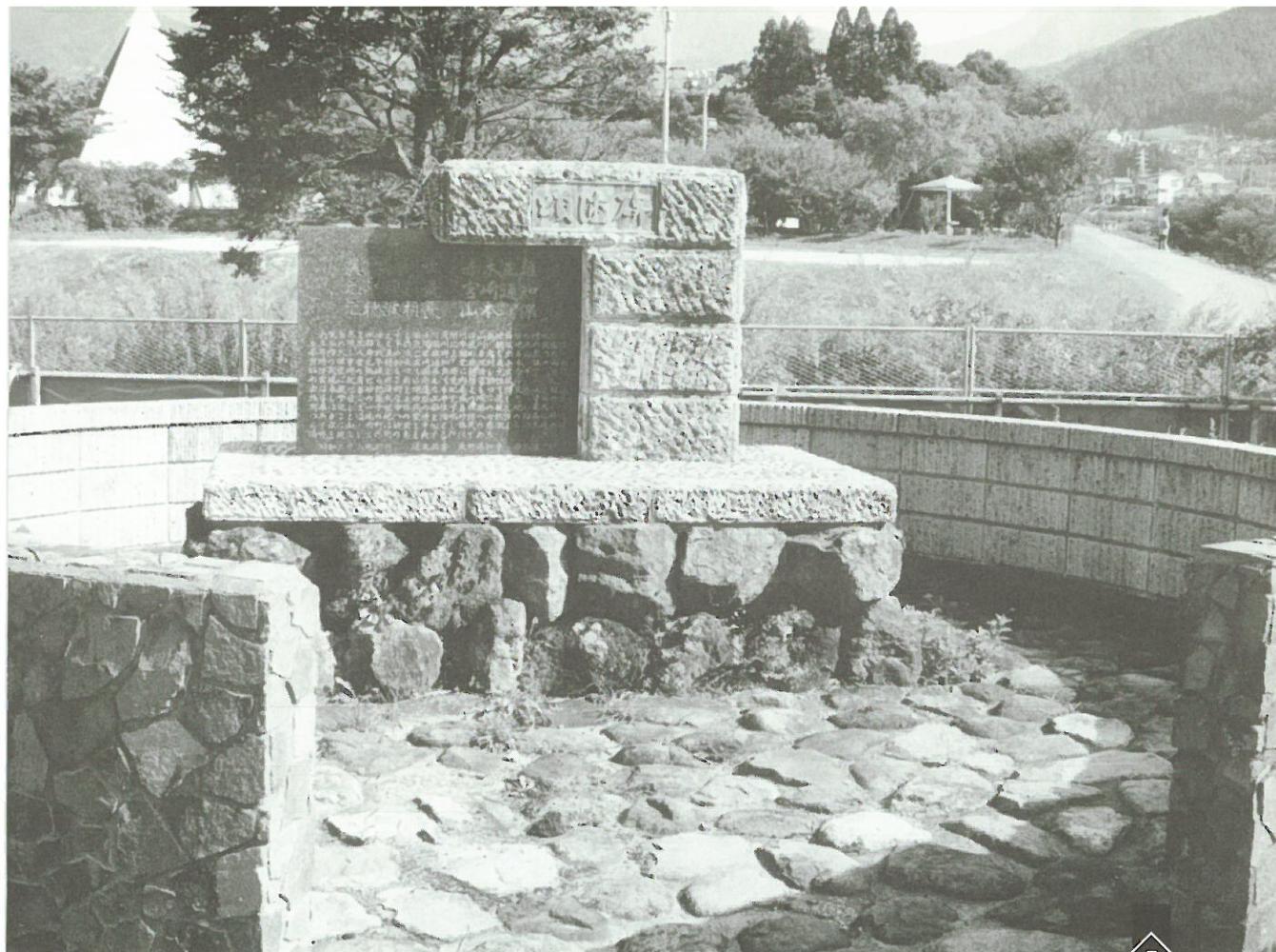
7 長野県
◎建立者／山ノ内町
◎建立年／昭和三十六年四月

頌徳碑

長野県志賀高原を水源とする夜間瀬川は明治三十九年より砂防工事が行われてきたが、豪雨などのたびに洪水や土石流などの災害が発生し、生命・財産に甚大な被害を与えてきた。

平隱村（当時）村長と穂波村（同）村長の二人は、地域住民の悲願である恒久的な砂防施設の整備をたびたび国や県に陳情してきた。これにこたえて昭和七年、内務省の勅任技師・赤木正雄農学博士によつて抜本的な砂防計画を樹立し、上流の砂防堰堤と下流の流路工を施工した。

石碑は昭和三十六年四月、当事業に貢献した平隱村（当時）村長と穂波村（同）村長、また内務省勅任技師・赤木正雄農学博士の三氏への感謝の意を込めて山ノ内町議会が中心となり建立したものである。



碑文

頌徳碑
農学博士

赤木正雄

元平穂村長 宮崎通知

元穂波村長 山本保

志賀高原を水源とする横湯川、
角間川は山岳特有の洪水による

石の流出夥しく下流夜間瀬川沿
岸星川穂波地区の災害は累年増
大し人命財産の流亡に故郷を離
れる者も出るに至つた。

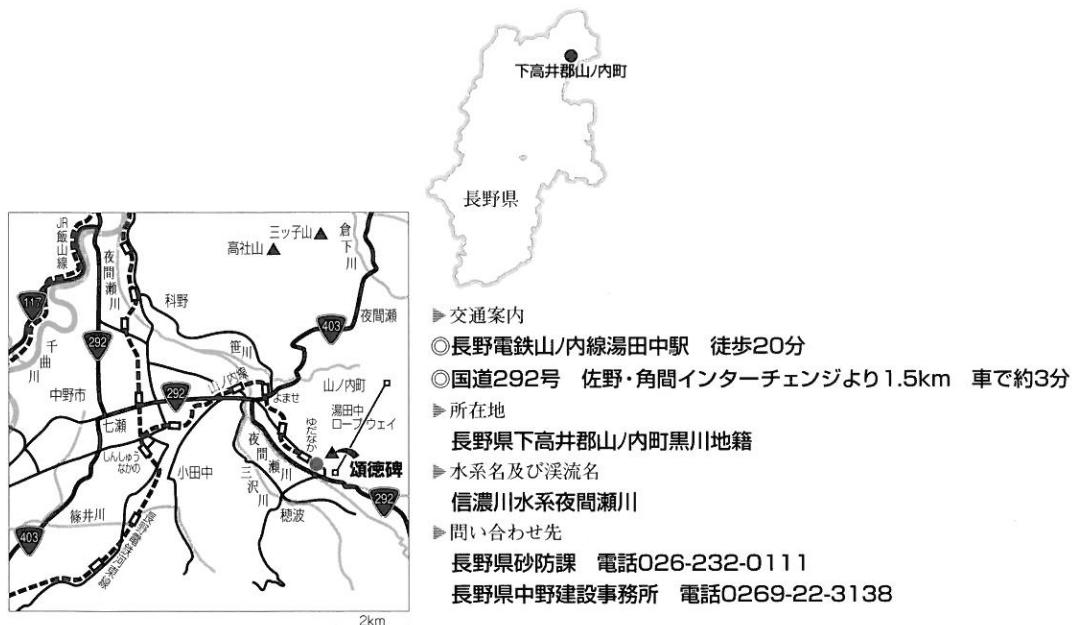
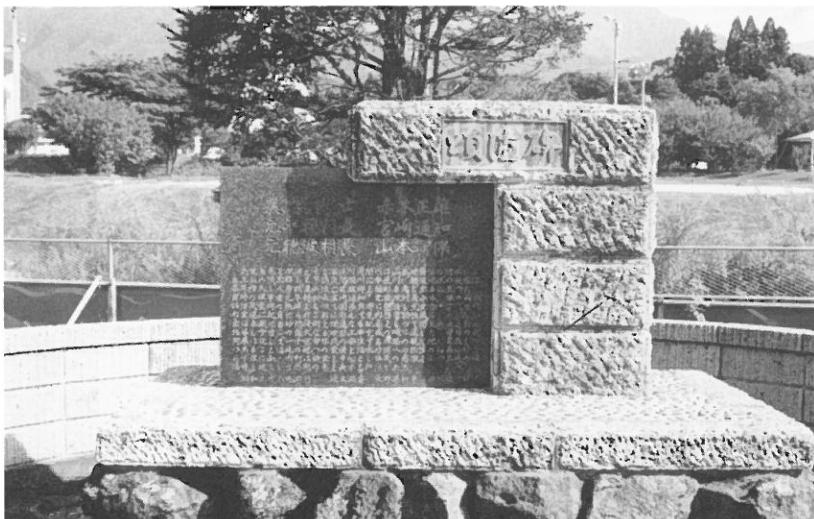
当時の理事者元平穂村長宮崎

通知、元穂波村長山本保の両氏

は済民愛郷の熱意をもって国県當
局に懇願し完全なる防災施設の
実現に挺身せられ、これに応えて
内務省勅任技師赤木正雄博士は
卓越せる砂防技術と深遠なる配
慮をもつて防災対策を計画指導し
今日此の龐大なる砂防工事完成

昔日の荒河原は化して一千世

帶住民の安住する理想の観光地
に発展しつつあることは此の地へ
の愛情と治水砂防の情熱の結晶
に外ならず茲に山ノ内町は議会
を中心として住民の感謝をこめ
三氏の頌徳碑を建立して感謝の
意を表す所以である。



◎建立者／赤木正雄先生顕彰会
◎建立年／昭和四十年四月十五日

赤木正雄博士銅像

（答先師の碑）

兵庫県豊岡市の生んだ赤木正雄博士は、まさに我が国の砂防事業の最高権威であることに論をまたない。この立像は、「砂防の神」と呼ばれる赤木博士が勲二等瑞宝章を授与されたのを機に、永久にその功績を讃えるために、地元有志会によつて建立されたものである。

赤木博士は内務省時代、貴族院および参議院議員時代を通して、全国各地に赴いて治水・砂防事業の必要性を説いた。兵庫県下では砂防事業の始まりとなつた六甲山系、地元、豊岡の円山川、矢田川水系の砂防ならびに改修などに大きな功績を残した。円山川のほとりに立つ像は、博士の業績と名譽を後世に伝えるべく、昭和四十年（一九六五年）四月十五日に除幕されたものである。

この「先師に答う」という碑文は、赤木正雄博士が砂防の道を歩むきっかけとなつた一高時代の恩師新渡戸稻造先生の教えと、赤木博士の信条を表わしたものである。



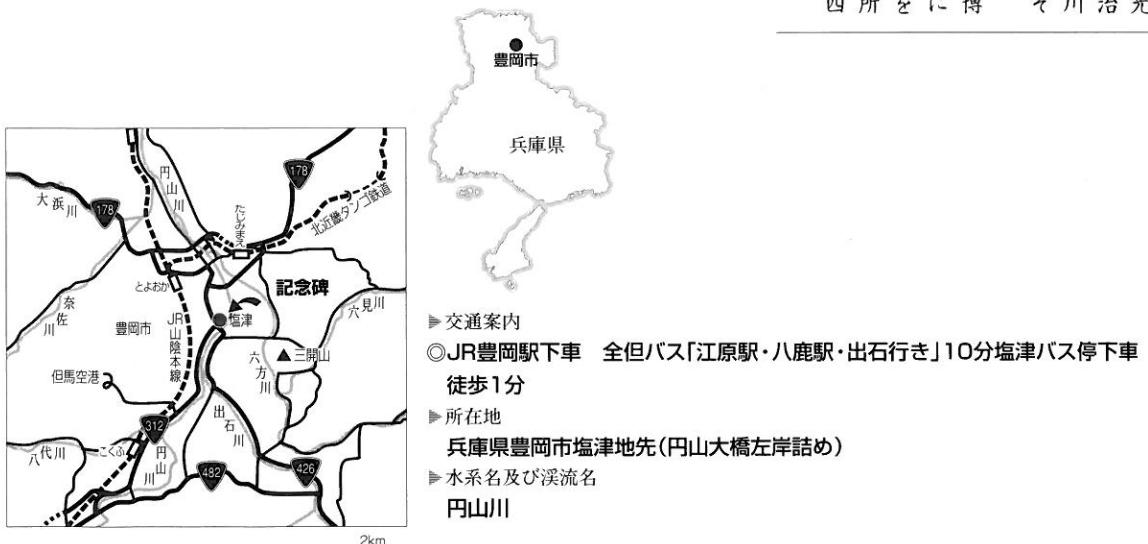
豊岡市の生んだ赤木正雄農学博士は我が國砂防の神とまでいわれてゐることは、ひとり博士の名譽と榮光にとどまらず但馬の誇りでもある。博士は長い内務省生活を通じ、また貴族院及び参議院議員としての政治的立場からも自ら全国各地に赴いて治水砂防施設の必要性を説かれ県下では六甲をはじめ円山川、矢田川水系の砂防並びに円山川改修等に残された業績はまさに大であり、住民ひとしくその恩恵に浴し永久にその功績を讃えるものである。

このたびその偉業と名譽を録するため勅一等瑞宝章授与されたのを機に我等立像建立を企図したところ博士は自らの業績を毫も意にとめず一高時代の恩師新渡戸先生から「我が国の治水は砂防にあるよつてこれに挺身せよ」との教えを生かしたに過ぎないと固く辞退されたが、我等その意を十分諒察できるも博士の功績を後世に伝えその偉業を顕彰することは我等の責務であり博士もその微意を汲み取られ大方のご協力の下に所期の事業を進め博士の信条とされる「先師に答う」を刻した銅像を建立するにいたつた。よつて昭和四十年四月十五日博士ご臨席のもとに除幕を行つた。

豊岡市の生んだ赤木正雄農学博士は我が國砂防の神とまでわれてゐることはひぢり博士の名譽と榮光にとどまらず但馬の誇りもある博士は長内務省生活を通して貴族院議員としての政治的立場からも自ら全国各地に赴き砂防事業の必要性を説かれ県下では一甲をはじめ円山川、矢田川水系の砂防並に円山川改修等に残された業績はまさに大であり主張ひどくその恩恵に浴し永久にその功績を讃えるものである

このたびその業績と名譽を録するため勅一等瑞宝章授与されたを機に我等立像建立を企図したところ博士は自らの業績を毫も意にとめず一高時代の恩師新渡戸先生から「我が国の治水は砂防にあるよつてこれに挺身せよ」との教えを生かしたに過ぎないと固く辞退されたが、我等その意を十分諒察できるも博士の功績を後世に伝えその偉業を顕彰することは我等の責務であり博士もその微意を汲み取られ大方のご協力の下に所期の事業を進め博士の信条とされる「先師に答う」を刻した銅像を建立するにいたつた。よつて昭和四十年四月十五日博士ご臨席のもとに除幕を行つた

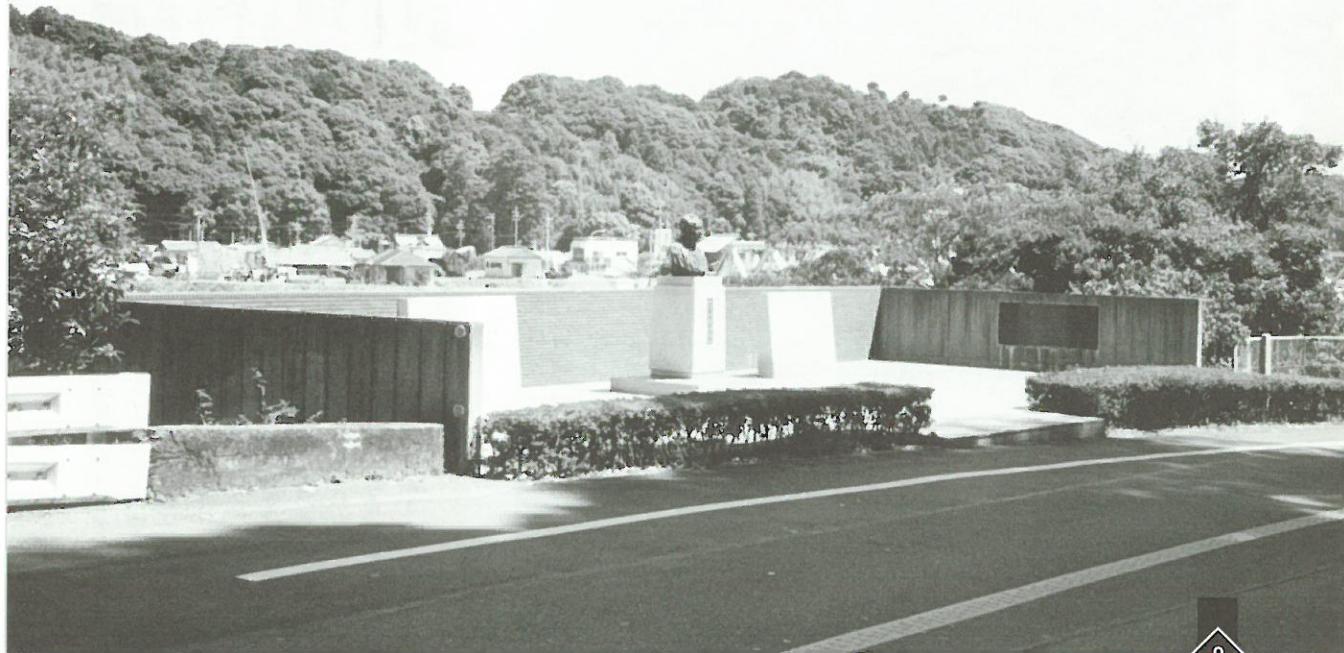
よつて昭和四十年四月十五日博士ご臨席のもとに除幕を行なう



金原明善顕彰碑

天竜川は昔から暴れ川として名を馳せてきた。金原明善は、この下流に位置する静岡県浜松市安間町で天保三年（一八三二年）に生まれ、幼時より度重なる水害の惨禍を身をもつて経験してきた。そして、江戸時代末期から明治時代にかけて、遠州の発展と人々の幸福は、天竜水系の治山・治水と開発にあるとして、私財を投げうち寝食を忘れて、この事業に取り組んだ。

翁は大正十二年（一九二三年）に九十一歳の天寿を全うして遠州との別れを告げた。残された金原用排水組合を中心とした人々が、翁の業績を讃え、またその遺風を後世に継承して、翁の精神をさらに生かしていく決意を込めて、この石碑を建立したものである。



碑文

明善の信條

- ・実を先にして名を後にす
- ・行を先にして言を後にす
- ・事業を重んじて身を軽んず

金原用排水組合管理者

浜松市長 栗原 勝

金原明善翁

明善翁は江戸時代の末期から明治時代にかけて私たちの郷土遠州の発展の基礎を築きました。翁は天保三年（一八三二年）この天竜川下流の遠江国長土郡安間村（現浜松市安間町）に生まれました。

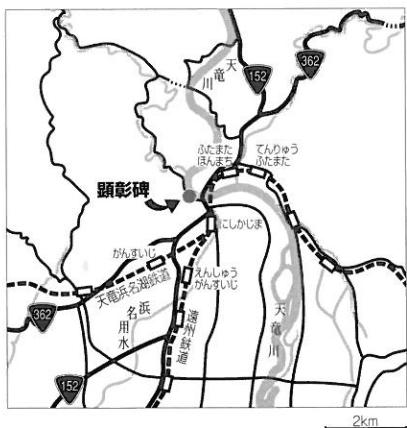
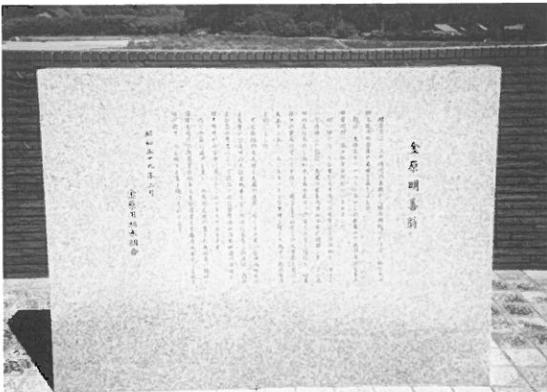
幼い頃からたび重なる天竜川の水害による惨禍を身をもつて体験した翁は、天竜川水系の治山治水と開発こそ、この遠州の人たちのしあわせを高める唯一の道であると確信し、以来自分の資産のすべてを投じ、寝食を忘れてこの大事業を実行し、大正十二年（一九二三年）大きな業績を残して九十一歳の生涯を閉じました。

天竜奥地の大美林と天竜川護岸、そして浜名・磐田両用水による豊かな遠州の大穀倉地帯など今日にみるこの姿は翁および翁の意志によって設立された金原治山治水財團の功績と関係市町村の努力に負うところが多大であります。

ただ一筋に遠州を愛し、天竜川と共に生きた翁の尊い精神が国営天竜川下流農業水事業及び国営三方原用水事業にも引き継がれて、今も脈々と生き続けております。

昭和五十九年二月

金原用排水組合



▶ 交通案内

◎遠州鉄道 天竜浜名湖線西鹿島駅下車 徒歩約15分

または西鹿島駅から遠鉄バス 二俣・山東行き鹿島橋バス停下車 徒歩約3分

▶ 所在地

静岡県天竜市二俣町鹿島1-49

▶ 水系名及び渓流名

天竜川

▶問い合わせ先

静岡県砂防課 電話054-221-3044

